

前期「学校評価アンケート」にご協力いただきありがとうございました

保護者の皆様には、9月の前期「学校評価アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。

前期の学校評価は、保護者や教職員、児童生徒のアンケート結果と、授業参観等でいただいたアンケートの結果を踏まえて分析をしましたので、報告させていただきます。紙面では、保護者アンケートの結果を学部別の表にして掲載しています。さらに、本校ホームページにて、教職員と保護者全体の結果を比較したグラフや、児童生徒のアンケート結果を表にしたものを掲載いたしますので、別途ご覧ください。

なお、本分析結果については、全教職員に周知するとともに、10月18日の学校運営協議会において報告し、委員の皆様からご意見を頂戴しております。いただいたご意見を参考にして、全教職員で課題改善に取り組んでまいります。

また、後期の「学校評価アンケート」は1月上旬に実施する予定です。ご協力をお願いいたします。

＜平成30年度学校教育目標＞

社会参加し、生き生きと活動したいという
児童生徒の願いを実現するために、
個々の可能性を最大限に伸ばす

＜目指す児童生徒像＞

興味や関心を広げ、心豊かに生きる

願いや夢に向かってすすむ

役割を担い、役に立とうとする

人を大切にし、共に生きる

丈夫な身体をつくる

元気に挨拶する

「くらす・はたらく・たのしむ」

＜前期学校評価アンケート結果分析＞

◎実施 平成30年9月

◎方法 各項目について「重要度」と「実現度」を5段階で回答。
児童生徒は実現度のみ

◎回答率

	保護者	児童生徒	教職員
回答数	132	80	132
回答率	71.7%	41.2%	99.2%

※アンケートは1家庭に1枚配布

◎アンケート結果

- ・重要度は「重要である」と「やや重要である」、実現度は「よく出来ている」と「大体出来ている」の回答を合わせた割合(%)を学部別に表示しています。

【保護者（学部別）：％】

質問項目	重要度			実現度		
	小	中	高	小	中	高
◆元気に挨拶する						
・子どもは、自分なりの方法で挨拶をしている	96.7	96.9	100	76.7	81.2	86.0
・教職員は、保護者や来校者に挨拶をしている	93.3	100	98.5	100	100	92.2
・教職員が児童生徒に接する時の言葉遣いや態度は適切である	100	100	100	96.6	100	93.7
◆丈夫な身体をつくる						
・学校では、健康維持や体力づくりに関する取組が十分に行われている	100	100	100	100	96.8	95.2
・子どもは、基本的な生活習慣が身についている	100	96.9	100	83.3	93.8	86.0
・わたしは、子どもが健康について意識できるように取り組んでいる（「しんどい」ことを伝える、薬を飲む、体力づくり等）	100	96.9	97.0	66.7	71.9	81.0
◆人を大切にし 共に生きる						
・子どもは、相手のことを考えて行動しようとする態度が育っている	96.7	93.8	97.0	50.0	59.4	61.9
・交流及び共同学習で、児童生徒は自分らしく活動している（居住地校交流、桃山小・桃山中・府立桃山高等との交流及び共同学習等）	90.0	87.5	87.9	70.0	65.6	54.9
・子どもはいろいろな人と関わって活動している（学校での校外学習、実習、地域の行事参加等）	96.7	100	100	83.4	81.2	73.0
・わたしは、子どもが人と関わっていく上でのマナーやルールを身に付けられるようにしている	96.7	100	98.5	53.3	65.6	61.9
・学校では、ルールを守り、相手のことも考えて行動するなど、集団生活の基本に関する指導が行われている	96.7	100	98.5	80.0	90.6	87.3
◆役割を担い 役に立とうとする						
・学校では、子どもが役割を担い主体的に取り組む活動をしている。	96.7	96.9	98.5	90.0	87.5	84.1
・わたしは、子どもの「できること」をみつけて褒めている	100	100	98.5	90.0	86.6	76.2
◆願いや夢に向かって進む						
・子どもは、目標や意欲をもって活動している	100	100	94.0	50.0	70.0	55.6
・保護者と学校は、子どもの願いや目指す姿を共有している	100	96.8	97.0	82.8	86.2	87.3
・学校は、保護者と連携して、子どもの進路（次年度、次学部、卒業後等）について考えている	100	96.7	97.0	70.0	79.3	77.8
・本人および保護者の願いが十分に、個別の包括支援プラン反映されている	100	100	98.5	93.3	93.1	92.0

質問項目	重要度			実現度		
	小	中	高	小	中	高
・学校は、子どもの年齢や適性に応じた進路学習を行ったり、関係機関との連携をしたりしている	100	96.8	97.0	86.7	79.3	77.7
◆興味や関心を広げ 心豊かに生きる						
・学校は、子どもの興味関心を広げ、個性を伸ばす授業をしている	100	100	94.0	86.7	89.6	84.1
・子どもは、好きな活動や興味を見つけて取り組んでいる	100	100	97.0	83.3	83.4	74.6
・子どもは、休日や放課後を、楽しく過ごしている	100	100	98.5	96.7	93.3	85.7
◆その他						
・学校の様子は、学年だよりや学校だより、学校ホームページなどでよくわかる	93.3	100	96.9	93.4	86.2	92.0
・学校は、物品の整理・整頓や安全・事故予防に取り組んでいる	100	100	97.0	93.4	96.7	82.5

＜分析結果＞

保護者・教職員のアンケート項目は、今年度の学校教育目標に照らし合わせ、目指す児童生徒像の六つの姿を基にして作成しています。

①＜元気に挨拶する＞

「子どもは、自分なりの方法で挨拶をしている」の実現度の項目では、保護者全体（以下保護者）で 83.2%の肯定的な回答（よく出来ている、大体できている：以下同じ）があり、教職員全体（以下教職員）では、96.4%の肯定的な回答がありました。保護者と教職員間で 13 ポイントの差が見られました。また、児童生徒アンケートでは、「自分なりのしかたで挨拶をしている」の項目に於いて、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う：以下同じ）が 96%でした。学校でできるようになった力を家庭や地域に広げ、活かせるように、児童生徒自身が、自分なりの挨拶の方法を身に付け、自信を持って挨拶ができるように日々取り組んできたいと思います。

児童生徒が、「元気に挨拶する」という姿を目指すためには、教職員自身が挨拶をすることや、児童生徒に対して適切な言葉遣いや態度を示し、児童生徒の手本となるようにすることが大切なことです。そのことに対する保護者から見た教職員の実現度の肯定的な回答は、96.8%でした。これ

に対して、教職員自身の実現度の肯定的な回答は、81.1%でした。教職員自身が振り返った結果、100%ではありませんでした。この結果から、後期には、100%の教職員が児童生徒の手本となる適切な言葉遣いや態度に改善されるよう、各学部学年で振り返り取り組んでいきたいと思います。

②＜丈夫な身体をつくる＞

「学校では、健康維持や体力づくりに関する取組が十分に行われている」という項目に於いて、保護者の実現度の肯定的な回答が97.5%でした。教職員の実現度の肯定的な回答は、94.5%で、保護者や教職員ともに90%を超える高い評価となりました。それに対して、日々の体調面に関する項目では「わたしは、子どもが健康について意識できるように取り組んでいる。（「しんどい」ことを伝える、薬を飲む、体力づくり等）」の実現度の肯定的な回答が保護者では、75.2%。教職員の実現度の肯定的な回答は82.8%でした。児童生徒自身が、自分の体調を意識することや、不調な時に周りの人に伝えられることは児童生徒の安心につながる大切な力です。児童生徒のアンケートでは、「しんどくなった時に、先生や家の人に話している」の項目に於いて、肯定的な回答が86%でした。この肯定的な回答は前年度（平成29年度）の前期では72%、後期では83%でした。回答している児童生徒に違いはありますが、肯定的な回答が少しずつ上がってきていることは、うれしいことです。毎日の健康観察時での担任とのやり取りや、保健室での養護教諭とのやりとりを通して、自分なりに伝えられる方法を身に付けられるよう取り組んできたいと思います。

③＜人を大切にし、共に生きる＞

「子どもは、相手のことを考えて行動しようとする態度が育っている」という項目に於いて、保護者の実現度の肯定的な回答は58.4%でした。教職員の実現度の肯定的な回答は88.2%と保護者に比べると30ポイント高く評価しています。学部別では、小学部の保護者全体では50.0%、中学部の保護者全体では59.4%、高等部の保護者全体では61.9%でした。

相手のことを考えること、さらに、考えたことを自分から行動することは大人でも難しいことと言えます。しかし、児童生徒のアンケートからは、「友達と仲良くしている」の項目に於いて、肯定的な回答が 96%ありました。児童生徒が友だちと仲良く過ごせていると思える背景には、友だちを大切にし、また友だちから大切にされていることが伺えます。学校では、教育活動全体の中で、児童生徒が指導者や友だち同士の関わりを通して、相手のことを考え、行動する学びの場があります。小学部では、自分を知る段階でもあり、好きなことや物を見つけ、楽しく過ごすことを大事にしながら、指導者や友だちとの関係づくりを大切にしています。中学部・高等部へと進んでいく中で、相手を思いやる気持ちや態度を育て、人とのつながりを広げていきます。それぞれの段階に応じて、児童生徒一人一人の心が育つよう、これからも家庭と連携を取りながら取組を進めていきます。

「わたしは、子どもが人と関わっていく上でのマナーやルールを身に付けられるようにしている」の項目に於いて、保護者の実現度の肯定的な回答は 61.3%で、教職員の実現度の肯定的な回答は、89.2%でした。学校では、様々な学習を通して、人と関わり、ルールやマナーを身に付けられるよう取組を進めています。家庭だけで、これらの力を身に付けられるようにすることは難しいことだと言えます。小学部では、クラスや学年、学部という小さな集団の中で人との関わりやルール・マナーを学び、できるようになったことを積み重ね、より広い社会で生かせるようにしたいと考えています。中学部では、学部だけでなく、小学部や高等部の縦割りの集団や、地域へ出かけて身近な社会の中で培っていきます。高等部では、卒業後の生活を想定し社会参加しながら力を育んでいます。児童生徒一人一人が、生き生きと人と関わりながら生活していけるよう、三者の願いを大切にして取組を進めていきたいと思えます。

④＜役割を担い役に立とうとする＞

「学校では、子どもが役割を担い主体的に取り組む活動をしている」の項目に於いて、保護者の実現度の肯定的な回答は 86.4%で、教職員の実

現度の肯定的な回答は 92.8%でした。学部別では、高等部へ上がるほど、保護者の肯定的な回答率が下がっています。学校は取り組んでいるとした中で、このような結果が見られたことから、個々の学習のねらいが保護者に伝わり切れていなかったことが伺えます。「何のために学習をしているのか」、「どんな力をつけたいのか」等、取組の意味や学習のねらいを、保護者に適切に伝えられるよう、改善を図っていきたいと思います。

「わたしは、子どもの「できること」をみつけて褒めている」の項目に於いて、その重要度は、保護者・教職員共に 99%を超えています。褒められることは、誰しもうれしいことです。できたことを具体的に褒めてもらえたことで、児童生徒は、自分自身を受け止めてもらえたという安心感やできたことでの達成感を抱くことができます。児童生徒のアンケートでは、「先生は自分が努力したことや頑張ったことをほめてくれる」の項目で 100%の肯定的な回答がありました。これからも、児童生徒の自己肯定感を育てていく大切な関わりとして、児童生徒の「できた」をたくさんみつけて、たくさん褒めて、児童生徒の力を伸ばしていきたいと思います。

⑤＜願いや夢に向かってすすむ＞

「子どもは目標や意欲を持って活動している」という項目に於いて、保護者全体での肯定的な回答は 57.7%で、学部別では、小学部の保護者では、50.0%、中学部の保護者では、70.0%、高等部の保護者では 55.6%でした。教職員の実現度の肯定的な回答は、82.0%と保護者、教職員ともに低い結果がでました。児童生徒アンケートの「学校の授業の内容が分かって活動できている」の項目で肯定的な回答は 94.0%で、残りの 6 パーセントが「どちらかといえばそう思わない」という回答でした。この結果を踏まえ、課題を見つけて改善していくことが必須と考えます。

一方で、前期に行われた授業参観時のアンケートからは、「児童生徒は、いきいきと活動していますか」の項目に於いて、肯定的な回答が毎回 90%以上いただいております。また授業参観時アンケートでは「生き生き活動している様子を観られてよかったです。」や「子どもたちのペースに合

わせてくれていて、すごく伸び伸びとした授業で楽しそうでした。」という感想をいただいております。

本校の今年度の研究テーマは、「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善です。「主体的な学び」では、自ら進んで学ぶ姿を伸ばすこと。「対話的な学び」では、人・もの・ことに関わる姿を伸ばすこと。「深い学び」では、深く考えている姿や学んだことを生かそうとする姿を伸ばすこと。このような力を培うために、授業改善を繰り返しながら学習を進めています。保護者には、児童生徒が「何ができるようになるか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか・何が身に付いたのか」等、取組内容や児童生徒の様子について明確に伝えていけるようにしたいと思います。

⑥＜興味や関心を広げ心豊かに生きる＞

「子どもは、好きな活動や趣味を見つけて取り組んでいる」の項目に於いて、保護者の重要度の肯定的な回答は 100%で、実現度の肯定的な回答は、78.8%でした。教職員の重要度の肯定的な回答も 99.1%と高く、実現度の肯定的な回答は、90.1%でした。保護者の回答が少し低いことが分かりました。学校では、余暇活動に繋がる授業として、金曜日の午後に、屋内外での運動や、美術・音楽・制作活動、感覚活動等に取り組んでいます。その他にも、毎2校時に和太鼓や造形活動なども行っています。児童生徒のアンケートでは、「毎日学校に行くことが楽しい」という項目に於いて、肯定的な回答が 98%ありました。これからも、様々な学習活動を通して、児童生徒が楽しみながら、自分の好きなことや趣味に繋がる活動を広げていきたいと思っております。

⑦＜その他＞

「学校の様子は、学年だよりや学校だより、学校ホームページなどでよく分かる」の項目に於いて、保護者の実現度の肯定的な回答は、91.0%でした。教職員の実現度の肯定的な回答は、97.2%と、保護者・教職員ともに実現度が高く評価されました。これからも、学年や学部、進路や学校全

体から、児童生徒の様子や情報を発信していきたいと思います。

「学校は、物品の整理・整頓や安全・事故防止に取り組んでいる」の項目に於いて、保護者の実現度の肯定的な回答は、87.8%でした。教職員の実現度の肯定的な回答は、76.5%と、保護者・教職員共に低い評価となりました。今年度、自然災害が続いたこともあり、これまで以上に安全対策について省みた結果であると言えます。古い校舎に対する耐震等の心配や、教室内での落下物への防止等、保護者・教職員ともに様々なご意見をいただきました。安全な環境づくりは教職員の責務です。子ども達が安心して学習できるよう、改善していきたいと思います。

＜学校運営協議会より＞

- ・「教職員が児童生徒に接する時の言葉遣いや態度」について、子どもへの呼び方は、児童生徒の実態に合わせ、呼名時に自分のことだと分かる呼び方でよいという意見もあるが、学校では、社会性を育て社会の中で児童生徒の存在を尊重するために、敬称を用いて呼名することが大切である。
- ・児童生徒が自信を持って社会で生活ができるよう、強い心を育てることが大切である。
- ・安全対策はとても重要である。物品の整理整頓の仕方については、みんなが分かるように視覚的な支援も入れて、学校全体で取り組むことが必要である。